

旅日記 & 小話

「学院長と行く中国旅行、孔子のふるさとを訪ねる旅」

北京、済南、曲阜、青島 8日間

‘08.10.18(土)～10.25(土) 7泊8日

旅日記

10月18日(土) 第一日 天候 札幌 曇り 北京 晴れ

12時、新千歳空港団体待合室、参加者全員集合。

各自でチェックインし、事務局長の見送りを受け出発。

ソウル便と重なり、団体ツアー客が多いためか、搭乗チェックは長蛇の列、待合室も大混雑。

免税店でお土産用の煙草、セブンスターを買う。

中国国際航空(CA)170便、定刻離陸、ほぼ満席。ほとんどが日本人の団体客。苫小牧市長一行も。

機内食は、麻婆豆腐、海老入りご飯、蕎麦、パン、サラダで味はまあまあ。以前はひどかった。

北京時間16時50分、北京首都空港着、天候は晴れ、と思うが大気汚染のせいか曇りの感じ。

オリンピック大运动会に合わせ本年3月完成した第3ターミナルビルは世界一と豪語するだけあって圧巻。

とにかく広くひたすら歩く、さらに入国審査から手荷物受取ブースまでシャトルで4～5分、その後受け取りまで30分以上を要した。この広さなら仕方がないか。

ガイドは劉^{liu}さん、全行程を添乗、まだガイド歴は浅いとのことだが日本語もまあまあ。

バスにて市内へ、27年ぶりの北京、当時の面影は全くなし、別世界のよう。時代の流れと変化を実感する。

ただトローリーバスは新しい車体にはなっているが健在であった。

夕食は派手なネオンサインの降博広場の餐厅で広東料理。久しぶりの中国菜、美味しかった。

21時、ホテル北京珀麗酒店着、明日は4時30分起床とのこと。11時就寝。

10月19日(日) 第二日 天候 北京 晴れ 済南 霧～晴れ

4時30分起床、全員遅れず集合、朝食のサンド、ヨーグルト、りんご、水を持ち空港へ。

途中、まだ真っ暗なのに無灯火というより、ライト自体がついていない、荷物を満載したリヤカー

を引く自転車やトラクターが次々市内方向へ走っていく。
近郊の農民が農産物を市場へ運んでいるのだそう。街灯があるからか、慣れているのか、無灯火でよく走れるものだ。
早朝にもかかわらず、すごい混雑、国際線に劣らず、厳しいセキュリティチェック。
搭乗待合室で記念集合写真撮影。
CA1841便、定刻テイクオフ、一時間たらずのフライトなのに早朝便のためか機内食、ハムの入った饅頭と水。
8時30分済南着、視界500m たらずの霧である。
日曜日のせい、はたまたローカル空港のせい、人は少なく預けた荷物も早々に出てきた。
山東省をガイドする亮さん、大阪に6年在住、関西大出身とのこと、日本語も上手い。
市内まで約40分、霧のため残念ながら、母なる川黄河は見えず。
地方はやはり、自転車、バイク、オート三輪の比率が高い。交通マナーも北京に比べるとかなりひどい。
再開発のためか共同住宅の建設ラッシュの感がある。
地方都市においてもマンションは高く、一般庶民にとっては高嶺の花との事。
前方に高級車の車列、VIPと思いきや、新婚花嫁のお披露目とのこと。
中国では結婚式にお金を掛け、派手に行うのだそうで、見合った収入なのかと老婆心ながら気になるところである。
済南市民の憩いの場である泉水公園を見学。日曜日のせいもあってすごい人、人、人。
亮さん、流暢な日本語で園内を解説。
1, 600 瓩/秒湧出の趵突泉は圧巻。
水が良くない中国でこんなにきれいな湧き水があるとは驚きである。
青島ビールなど旨いビールの産地であるのは頷ける。
園内では日曜日に開催されるアマチュアの京劇が行われていた。日本の歌舞伎のルーツ。
人民服のおっさん発見。懐かしい、27年前は町中この服だった。
ちょっと早めの昼食で麗天大酒店へ。4大料理の一つ山東料理。
ピリ辛系が少なく野菜が多いので日本人の口に合う。
高速道で一路曲阜へ、3時間ちょっとの居眠り旅。
霊峰泰山が見えなかったのが残念。次の機会に。
サービスエリアでトイレタイム、果物味のシャーベットアイスを食べたがなかなか美味。好吃！
曲阜に到着。曲阜ICに「有朋自遠方来，不亦樂乎」の歓迎横断幕。
ICをでて、一般道との交差点に馬車に乗り、こっちだよ！と市内の方向へ身を乗り出している孔子の像がある。
2時半、ホテル闕里賓舍着、ホテルは孔子廟に隣接して建っており、廟と同じ様式にし、2階建で景観に配慮している。
現地ガイド修さんが合流、中国人にしては大柄な人。

南へ来たせいか、暖かいというより暑い。明日天気が良いれば半袖にしよう。

夕食まで自由時間なので市内探索へ、孔子廟を守る城壁沿いを歩く。

延長6km、高さ6mとのこと、圧巻。

得体の知れない露店の骨董屋や農民の野菜果物屋台が並び、自転車、電動自転車がやたらと多い。

日本の電動自転車と違い、家庭電源で充電、モーターで駆動する。いわゆる、電動原付バイク。電気が無くなればただの自転車。中国では免許は要らないとのことだが、日本では免許がいる。

輪タクの客引きはうるさくしつこい。不要！

細い路地からいきなり赤いクラシックカーが飛び出してきた、見るとウエディングドレスの花嫁が乗っている、手を振って祝福したが、スピード上げ走り去った。

商店街は意外にも若者向けのファッションな店、カットショップ、スポーツ用品店などもある。

近年、景観維持のため建物の改装が行われ、現在も続いているとのこと。

ATM設置場所に「zì zhù yínháng自助銀行」の看板、面白い。

ホテル向かいの商店で地酒の白酒「孔府家酒」を買う。店主の奥さんらしきおばちゃん、嫌みのない明るい対応が很好！

露店の果物屋の赤い大根のような物が気になり、亮さんに聞くとやはり大根で甘いとのこと、明日、食べて見ることにする。

お菓子屋と思い気店で、サブレに似たお菓子を買う。栗、蜂蜜、りんごの餡が入っていて、サクサクの皮とマッチし、美味しかった。ショーケースの中に虻蜂と蠅が飛び交っていたが。

ホテルへ戻り、売店で論語の日本語版を買う。50元。

夕食はホテル餐厅にて、郷土料理孔府菜の孔府家宴、豆腐料理と薄焼き卵で青菜を挟んだ料理が美味だった。日本の精進料理のようだ。

紅色の「福」の文字の切り紙をもらう、家内が喜びそう。

オプションの孔楽踊劇を鑑賞に行く。4篇章構成で孔子の思想、教えを約1時間の野外劇にしたもので、モニタースクリーンで英語、日本語、韓国語の解説が表示されるので理解できる。

野外劇場も劇も素晴らしいの一言。

特に第三篇章、「sì hǎi zhī nèi jīe xiōng dì四海之内皆兄弟」が胸を打つ。

回教徒で白い帽子を被った、ウイグル族の一団も居た。漢族とはあまり仲が良くないと聞か、これをいかに見たらろうか。

輪タクで帰る、乗り心地はまあまあだが、当然無灯火で前乗りのため、少し怖い。

洗濯をし、孔府家酒を一杯飲みながら論語を読みつつ、0時就寝。

10月20日(月) 第3日 天候 花曇り

5時半起床、暖かい。ホテル周辺を散歩。すでに通勤なのか自転車、バイクが行き交っている。ホテル周辺に朝食の屋台はない。

7時朝食、お粥を食べる。トッピングの種類も味も良い。

ホテル周辺の商店も観光客に合わせてか、8時には開店している。

8時半、徒歩にて世界文化遺産、「孔廟」を見学に出発、南門へ向かう道中の闕里露店街はさながら浅草の仲見世の感がある。印鑑屋が多い、あまりうるさい客引きはない。

ここで学院長より印鑑について一家言あり、曰く印鑑は名前を彫るだけでなく、自分の干支や好きな言葉、座右の銘などを彫り、手紙、文書などに名印とともに押すと品格が増すとのお話。さすが老子、凡人には思いもつかぬ事、目から鱗。

仰聖門（南門）より世界文化遺産「孔廟」内へ、修さんのあまりうまくはないが軽妙な日本語の解説で各所を見学。

孔子の没後、BC480年に孔子の住居を廟とし、明を経て清時代に現在の規模になったとのこと。

南北1,000m、東西140m、面積20,000㎡の巨大な廟だ。

廟内最大の建物で中国三大建築物の「大成殿」は黄色の瑠璃瓦葺き、この色の瓦葺きは孔子関連の建物以外使用できない。正面の石柱の竜の彫刻が見事であった。

殿の高さは32m、孔廟周辺ではこの高さ以上の建物は建てられない。

大成殿をバックに集合写真撮影。

写真屋さんの受付テーブルに珍しい算盤発見。上が二玉、下が五玉。初めて見た。

その後、孔子の子孫の住居、「孔府」を見学。

孔子没73歳、孟子没84歳、曲阜周辺ではこの歳になると1歳とばしたり、戻して、歳を言うという、今では各地に広まっているとのこと、中国の人たちの孔子とその思想への敬愛の深さを表すものだ。

ここは偉人孔子の故里で住民の大半は末裔だが、この地から中国の最高学府、北京、清華大学へ進学した人はいないとの話。教えは伝承されても、頭脳までは伝承されないらしい。

孔廟を出た処の露店で例の大根を買う。三元。安いのか、高いのか。

味は間違いなく大根、辛みはなく、ほんのり甘みがある。焼き魚の下ろし薬味にはあわない。

学院長の友人の店で休息。高級店らしく、高価な家具、彫刻類、茶器などを販売している。

バスに乗り、世界文化遺産、孔子をはじめ一族、弟子の墓所「孔林」へ。バス降り墓所入り口の至聖林門までの数百mの道には焼き芋、焼き栗、果物の屋台や土産物露店が並ぶ。みかん、りんご、棗の産地とのこと。

土産店では一様に弓を売っている。何か謂われでもあるかと亮さんに質問したら、何もなしとの事。日本の温泉地で売っている木刀のようなものか。

「孔林」、面積は200万㎡と広大な墓所で松柏の古木の中に弟子達の墓の土饅頭が点在して

いる。

孔子の墓は門から歩いて10分ほどの奥まった一角に子息、孫、妻の墓とともに建っていた。二枚の石碑があり、前の石碑には篆書の金文字で「大成至聖文宣王墓」と書かれ、南宋代に、後ろのは明代に建てられたもの。

文革の時に掘り返されたが、何も出土しなかったとのこと。よく石碑が破壊されなかったものだ。ちなみに妻の墓は孔子の墓の奥に建っているようで、だから“奥さん”と言う。これは冗談。帰りに屋台でクレープのような食べ物を見つけたので買ってみた。

10元、パリパリの大きな薄焼き煎餅のような皮に、甘辛味噌を厚く塗り、細切りネギをトッピングし、畳んだシンプルなもの。旨い、ビールのつまみに合いそうだ。

市内へ戻り、ホテル側の餐厅曲阜大酒楼で昼食、細工ナプキンが素晴らしい。

またバスで移動、魯国故城へ、9世紀も存続した国の都城で城壁の一部(草に覆われている)とそれと示す碑が建っている。

さらに移動、古代中国三皇五帝の一人、少昊の墓、少昊陵へ向かう。

バスが入れないため、下車し商店や民家の建ち並ぶ通りを歩く。

通りに「kong zhi ren kou shu liang 控制人口数量、ti gao ren kou su zhi 提高人口素质」の横断幕、「少ない家族で、能力向上」か。面白い。決して豊かとは思えない町だが、家の前に座っている老人や子供を抱いた女性など挨拶すると笑顔で返礼してくれる。嬉しい。

家々の玄関の扉に「喜喜」の文字。縁起モノか。昔、実家にあったラーメン丼を思い出す。

道路に麦が敷き詰めてある、人に踏ませて脱穀するのか。脇には大量にゴミも捨ててあり、蠅が飛び交っている。

農村と思しき集落を通る。ほとんどが素干し煉瓦造り。人か自転車しか通れない路地を挟んで整然と建っている。新築改築中の家もある。

大蒜を収穫、山積みしてる掘っ立て小屋があった、実は火事で焼け出された農民との事。どうりで布団があった。

その近くにひときわ目立つ家。塀を巡らしその上に泥棒よけのガラス片。修さんによれば、この地区の役人の家で、役人は皆金持ちとのこと。同じ集落の中でこの格差。何たること。

ほんのわずかだが庶民生活の匂いを嗅ぐことができた。

500~600m歩いたろうか、少昊陵に着いた。

石を積み上げた陵墓、高さ約9mの四角錐形から中国版ピラミッド。

職人さんが入口の門屋根の補修をしている、外した緑色の瓦は歴史のあるものなのか、形、サイズ毎にきちんと整理されていた。

今日最後の訪問地、孔子の生誕地、世界文化遺産の「尼山孔子廟」へ。小雨が降ってきた。高速道で約30分、さらにバス一台がやっと通れる山道に行く。

母親が孔子を産み落とすとされる洞窟、「夫子洞」。周辺はきれいに整備されている。

ここで集合写真。

丘の上の廟からの眺めは素晴らしいとのことだが、小雨のためよく見えなかった。

市内へ戻り、休憩を兼ね土産物店へ、萬金油があったので買おうと思い値段を見ると、70元。
やめた。

某氏、昨日ホテルで買ったものと全く同じ曲阜市のガイドブックがこの店の方がかなり安いので、落胆。よくあること、気の毒。

ホテルへ、夕食まで自由時間。おばちゃんの店でミネラルウォーターを買う。

店先に置いてたものでなく、新しい梱包の中から出してくれた。嬉しい心遣い。

夕食はホテルの餐厅で普通の料理。

孔府家酒を飲みながら今日までの日記を整理し、1時就寝。

10月21日(火) 第4日 天候 雨

5時起床、雨のせいか、前日と違い肌寒い。

今日も朝食はお粥。相変わらず旨い。

9時出発、学院長の発議で当初の予定を変更して、曲阜師範学院視察。

おばちゃん、手を振って見送ってくれた。再见！还有来。

すぐ到着、本館の前庭に「re lie huan ying ri benyou ren lai xiaocan guan tang wen热烈欢迎日本友人来校参观访问」の横断幕。谢谢！

小学校の教師を養成する学院とのこと、幹部の方が応対してくれた。

中国では近年英語教育に力を入れているそうで、都市部では小学3年より100%、地方においても70%ほど、実施しているとのこと。日本は遅れている。

雨が上がったので、構内を案内される。

孔子像の前で集合写真。

院を紹介する資料館へ。設立から現在までの歴史と輩出した人々を紹介している。

来訪の記念記帳を求められ、代表して院長記帳。

休憩時間になったらしく、学生が出てきた。又寮らしき建物の窓から、手を振り中国語、日本語で挨拶してくれる。こちらも返礼「学习, 加油！」。

ここで修さん、そして曲阜とお別れ。絶対再訪したい町だ。

一路高速道で青島へ、昨日見学した尼山が見えた。

意外と交通量は少ない。

中国の高速道はなぜか人が歩いている。今回も3人ほど見た。理由は知っているが割愛。

途中、臨沂市近くの温泉リゾートと思わしき齋都大酒店にて昼食。

ここは三国志、蜀の軍師、諸葛亮の生誕地の近く、博物館もあるとのことだが、今回は予定になく残念。

久々に海魚、イカ、海老の料理を食す。

胡瓜の醃味噌丸かじり、デザート生の棗が美味。

雨、一段と強くなり、高速道路移動中4件の事故に遭遇、事もあるうにパトカーも。雨の中の走

行危険このうえない。

市内に入ってからもたぶん事故のため思われる渋滞に巻き込まれる。

約1時間遅れで夕食の海鮮餐厅怡情楼酒家到着。

ドライバーさん、お疲れ、ご苦労様でした。

本場の青島ビールで安着、干杯。

海鮮料理で、今までで一番の満足料理でほぼ完食、長距離移動の疲れも吹っ飛ぶ。店員さんの対応、サービスも良く、再訪したい店。

ところで、ビールはどこの餐厅でも判で押したように大瓶30元。

ちなみに、超市(スーパー)では8~12元。

9時半、ホテル黄海飯店着、家へメール送信、変わりなしの返信あり安心。洗濯し、12時就寝。

10月22日(水) 第5日 天候 曇り

4時半起床、NHK衛生放送を見る。海外向け放送なのか、こんな朝から子供番組をやっている。

明るくなったので海岸へ行ってみる。

ここも周辺に朝食を提供する屋台は無い。

驚く無かれ水泳をしている。およそ20~30人の男女が比較的高い波の中で泳いでいる。

水着のまま海岸をジョギングしている人、ビーチバレーをする人、こんな早朝からである。

聞けば寒中水泳とのことで年中行っているそうである。

ホテル付近の道路は通学路らしく、二人の小学生らしき子が交差点で旗を持ち、歩行者誘導をしていたが、従う人は誰も居らず滑稽であった。

7時朝食、お粥の種類が多くどれも旨い。

9時、市内観光へ、青島市はドイツ植民地時代に開発整備され落ち着いた住宅地の感がある旧市街地と近年開発され青島政治経済の中心地で発展著しい新市街地とに分かれている。

まずは旧市街地を一望できる小魚山公園へ、ドイツ様式の朱の瓦屋根の住宅が見事である。

少し霞が掛かっていたが、それがまた情緒があった。

ドイツ総督の屋敷であった迎賓館、居留ドイツ人の拠り所であったろう基督教会は日本占領、文革の嵐を乗り越え歴史遺産として保存していることはすばらしい。

久しぶりに、物売りの“千円！千円！”の掛け声を聞く。

迎賓館のBARでしばし休息。

昼食は新市街地のホテル国敦大酒店で飲茶。美味。久々に紹興酒を飲む。

午後、青島ビール工場見学、中国を代表し、世界に誇れるビール。

工場でしか飲めない原酒と出来たてのビールを試飲、というよりミニ宴会。

我がグループ、刘さんの話で盛り上がる。刘さん、茅台酒で有名な贵州省出身なのに意外にも

下戸とのこと。

市内一番の観光スポットであり、景勝地の「棧橋」からの景観は最高、小青島は目の前。地方からの観光客で溢れかえっていた。

結構物乞いがいた。行きに足が曲がって這いながら物乞いしていた女性、帰りに見ると立って仲間と話をしていた。驚きというより、青島雑伎団である。

旧市街地の八大風景区へ、国家管理の別荘地、高級住宅地で瀟洒で豪華な建物が建ち並んでいる。

またまた花嫁に出会い一同拍手で祝福。“ありがとう”と日本語で返礼。

この界隈は新婚カップルの記念写真撮影スポットとのこと。

なお、今まで3人の花嫁を見たが、すべて純白のウエディングドレスであった。

「タカ&トシ」もここまで来たか。

延長40数キロに及ぶという海岸遊歩道の一部を散策、さすが中国。

夕食前に土産物店へ案内されるが、途中見つけた超市へ。

日本のスーパーと違い、果物野菜鮮魚肉及び加工品は量り売りの対面販売だ。

また、高額の商品は安全のためレジ後ろの別の棚に陳列している。

茅台酒があった、528元。刘さんによれば適正価格とのこと。

中瓶の白酒を買う。9元5角と安い。

夕食は燕京大酒店で海鮮鍋、ただし野菜、豚、羊肉もあり、中国風しゃぶしゃぶ。

最後の麺が美味しかった。

刘さん、日本の音楽が好きだそうで、我がPCに入っている曲をコピーしてプレゼントする事にした。

白酒を飲みながら音楽をUSBMにコピーする。飲み過ぎの感あり、朝が心配。

10月23日(木) 第6日 天候 青島 雨～晴れ 北京 晴れ

朝、5時半すっきりと起床、二日酔いなし。

外は強風と雨。飛行機が飛ぶかと心配したが、出発時には回復、一安心。

朝食時、刘さんより‘81の北京の風景写真を見せられる、懐かしい。

刘さんにタベ約束した音楽をコピーしたUSBMを渡し、使用法を教える。

青島空港までは約1時間、地方空港らしくコンパクトな造りだがりっぱ、まだ五輪の装飾のままだ。

ここまで済南から走行距離約1,200kmとのこと、中国は広い。ただ内陸部に多いコンクリート舗装と違い、ほとんどがアスファルト舗装だったためか、振動揺れが少なかった分、あまり疲労感がない。ドライバーさん 感謝！

ここで亮さんとお別れ、ありがとうございました。

相変わらずSCは厳しい。

搭乗待合室のコーヒーショップで、刘さん達とコーヒーを飲む。

一杯98元、約1,500円。高いとは聞いていたがこれほどとは。驚き。

ちなみに私はビールを、小瓶で25元。こちらも高い。

CA1560便、定刻離陸、サンドイッチの機内朝食。中国なのに。

途中、天津市街と港が見えた、懐かしい。

11時30分、北京首都空港着。風のせいか、パイロットの腕のせいか着陸寸前右に傾き、ヒヤッとする。

晴れではあるが、やはり風が強く寒い。入国した日と違いきれいな青空だ。昨日大雨が降ったとのこと、そのせいか。

市内へ向かう道の両側に、何やら歓迎の幟が多数。よく見るとアジア欧州会議とある。

いやな予感。政治家が来るとろくな事がない。

昼食は王府井の餐厅。

今旅中今までで随一の無星レストラン。場所は一流、料理は二流、サービス三流。こんなこともある。

この後は自由時間で、北京動物園見学希望の方、自由行動希望の方がおられたが、学院長の発議と刘さんの勧めにより、自由行動希望の二名を除き、オプションの胡同遊覧へ行くことになった。

なお、胡同とは元朝から受け継がれてきた町並みで、27年前来たときは市街地のほとんどが胡同だった。

三輪の輪タクで前海、後海北沿を行く、位置的には紫禁城(故宮)のすぐ北側になり、この水は紫禁城の堀に流れ込んでいる。

とにかく寒い。

10分位で中山孫文先生夫人、宗慶齡女史故居へ。革命の父、孫文先生夫人居宅の為か、グリーン制服の武装警察が警備している。

贅を尽くした造りではないが、回遊庭園もあり、豪華な屋敷だ。

ここでガイドの女性登場、小柄だが美人。

ダウンコートに帽子、手袋の防寒姿で、日本語で女史の生誕から没までと、屋敷の各部屋、そして展示品を解説してくれた。

孫文先生と夫人の結婚記念写真があった。支援者だった、梅屋庄吉の言葉を思い出す。

“君は兵を挙げよ！我は財をもって支援す！”。

寒い中、前海、後海の接点、銀錠橋まで戻る。この界限はBAR街で夜は華やかだそうだ。

徒歩で胡同の庶民の住居を見学に行く。

ちなみに後海の北側は高級住宅街、南側は庶民の住宅街とのこと。

車は絶対通れない路地を行く。

通りに面した壁には窓を造らず、中庭を配し囲むように建物を建てる、四合院造りという一般民

家を訪問見学。

狭い玄関を入ると中庭というより、家庭菜園があり、縁起ものの金魚を飼っている。

居宅へ入るとすぐ右側に台所、そしてやや正面に居間、15～6畳位か。狭い感じはしない。

小柄な奥さんが、茶とお菓子を振る舞い、築100年位経つこと、居住しつづけることを条件に補修費、電化製品を政府が補助してくれたこと、子や孫は別棟に居住しているとのことなど、家のことを説明してくれた。

これこそ本当の民族遺産であり、後世に残して行ってほしいものである。

ところで我々の前に日本人のツアーが見学していた。何かしばらくぶりに会った感じがした。そういえば曲阜、青島でも日本人には会わなかった。

夕食の餐厅へ向かうが、ものすごいラッシュに巻き込まれる。遅々として進まない。

先にレストランに着いた自由行動組二人から、数回到着時間の問い合わせ電話が入るが、刘さんにもはっきり答えられない。

予定時間より一時間遅れで餐厅金鼎軒到着。お二人さんお待たせ。

夕食を終え、真っ直ぐホテルへ、今度はスムーズに走れる。

明日は余裕を持って、8時30分出発とのこと。11時半就寝。

10月24日(金) 第7日 天候 晴れ

5時半起床、周辺を散歩。

向かいに韓国、日本料理店、公園がある。ここも朝食の屋台はない。

6時より朝食、ここのお粥も旨い。搾菜をトッピング、これも旨い。

今日は日程最後の日。8時半、孔子学院本部表敬に出発。今日も青空の良い天気で風がない分、昨日より暖かい。

通勤時間帯を過ぎているせいか、順調に進む。

本部は周辺でもひととき大きなビル。ちょうど同じく英国の孔子学院で学ぶ高校生らしき団体と一緒にいる。バス4台のすごい人数。

お名前は失念したが、日本担当の30歳台の男性事務局員が対応してくれた。

小柄だが常に笑顔を絶やさず、片言の日本語でテキパキした対応は好感が持てた。

帰りのバスの出発まで手を振って見送りしてくれるなど、とても政府のお役人とは思えなかった。

又、館内の中国の歴史、伝統文化、工芸美術品などを紹介展示しているコーナーを案内してくれた女性職員の対応も素晴らしかった。

ここで各自の干支の切り絵をプレゼントされた、中にはちゃっかり家族の分も頂く人も。

図書館に案内される。幼児用から大人用までの中国語学習テキスト、中国語辞典の各国版、カンフー、太極拳、中国料理本等々が所蔵展示されている。販売もしている。

来館記念にどれか一冊づつ、プレゼントし、まとめて送ってくれるという。
中国語辞典の日本語版の希望が多かった。感谢,感谢!
会議室で各自一言、片言の中国語、流暢な日本語でお礼と挨拶。
正面玄関で記念撮影をし、笑顔で手を振る男性事務局員に見送られ、孔子学院本部を後にする。 谢谢! 再见!
昼食には早いので、オリンピックスタジアム、通称鳥の巣を見に行く。
途中、龍をイメージして建てられたオリンピック時のプレズビルの側を通る。中国の人の龍に対する拘りはすごい。
鳥の巣は現在立入禁止のため、近くの横断歩道橋の上から、写真撮影のみ。
鳥の巣の道路を挟んだ向かい側に、保存されている少数民族の朽ち果てた住居がある。
そのアンバランスが面白い。
露店の焼き栗があったので買おうとしたら物が良くないと刘さんに止められた。
さすが地元の人。
昼食は王府井の東華街四川飯店で四川料理。
以前成都、重慶で食べた料理ほど辛くはないが、まあまあ辛さ。でも旨い。
隣のテーブル、辛いのが苦手の方が多いのか、麻婆豆腐にほとんど手が付いてないのでこちらで頂いた。
重慶出身という結構な日本語を話す女性店員がいた。2年間学校で習ったとのこと。
土産販売の担当らしく盛んに誘う。
食後、約3時間の自由時間、北京が初めての方もいるので、天安門広場を見てから自由行動することになり、王府井から行く学院長グループと、近道の東華門から行く刘さんグループに分かれ出発。私は近道グループ。
東華街は夜、屋台街になるので、歩道に屋台の骨組みが並んでいる。楽しみ。
周辺は国内各地からのお上りさんか、すごい人、人。
中国の団体さん、添乗員は日本と同じく会社の旗を持っているが、お客はバッチではなく、会社名の入ったカラフルなキャップかベストを着ている。
なるほど、これなら迷子になっても見つけやすい。
東華門から故宮敷地内へ、正面入口の午門まで結構距離があるのと、人が多いため、刘さんの提案で、電動シャトルに乗ることになったが、人を押し退け我先に乗る人達で、やっとの思いで乗る。一人1元。
4~5分で到着、停車し降りようとした瞬間、次の乗客が怒濤のごとく押し寄せてきた。
それをかいくぐり下車、何ともすざましい。
ご年配の方が心配だったが皆無事。一同啞然。これぞ中国。
ここで故宮内を見学する一人と別れ、午門行くとバリケードに黒服の公安警察とグリーン服の武装警察、ここから天安門まで通行止めとのこと。
刘さん、有料だが中山公園を抜けて行こうとチケット売り場へ。

そこで何と天安門広場はもちろん、周辺道路すべて進入通行禁止と聞かされる。
悪い予感的中した。人民大会堂で例のアジア欧州会議が開かれているためである。
それにしても事前に解っている事だろうに、プレス発表されないのだろうか。
仕方がないので、王府井へ戻る。
数人で王府井大街の国営デパート北京市百貨大樓へ、店内配置は食品は地下、化粧品は1階と日本と同じ。
中国の名酒器「夜光杯」^{ye gong bei}を買おうと、店員に聞いたがここには無いとの事。残念。
我家の財務大臣へ土産の花茶と自分用の茅台酒を買う。お茶はどこ売り場でも必ず試飲できる。
このデパートは売り場で買う品物を示し、品名、数量、金額の入った伝票をもらい、その階のキャッシャーへ行き支払う、その際100元紙幣は必ず偽札検知器に掛けられる。領収書と支払い確認書を受け取り、売り場へ戻って品物を受け取るシステム。なお、売り場の店員さんが代行してくれる場合もある。
仏の LouisVuitton 本店を思い出した。
歩き疲れたので大街へでて休もうとベンチを探したが、何処もキャップとベストに占領されている。
集合場所の四川飯店前に戻り、店でお茶を飲もうということになった。
ここで某氏、中国銀行を見つけ両替に。手続きが面倒らしくかなり時間を要したがレートは良かった。
店でお茶とビールを飲み一息つく。ビールは銘柄により15～25元、今までの飲食店で一番安い。
集合時間が近くなったので、屋台を覗きながら行こうと外に出る。すごい人、人。
この屋台は正式名「東華門美食坊夜市」といい、約90軒、北京市公認だそうである。
どうりで、皆同じ形の屋台で、中には揃いのユニフォームの店員も。
役所がお墨付きを与えたモノはどうして画一的になるのだろうか。
観光客向けのようで、お客もそれらしき人ばかり、北京庶民の匂いは全く無し。
どの店のメニューも肉類、海鮮(?)、蛇などのいわゆるゲテモノの串モノと果物のスティックやジュースばかりで、麺類や生煎は無し。値段もどの店もほぼ同じ。
食べる気にはならず。観光名所(?)として見ておく。
全員無事集合し、夕食の餐厅へ向かうが、またもや渋滞にはまる。
通勤ラッシュと思いきや、例の会議出席のVIP通行のための交通規制のせい。全く政治家が来るとろくな事がないよい例である。
今旅最後の夕食は交流会を兼ね、太平洋デパート内の大宅門で北京料理。
海鮮、野菜、肉類と多彩な料理、旨い。
学院長の求めで、各自今旅のそれぞれの思い、感想を述べる。
最後に学院長が今旅の目的は概ね達成、成功であったと総括し、帰国後写真交換を兼ね反省

会を企画したいとの発議に一同賛同、一任する。

我が旅のコンセプトは「郷に入れば郷に従え」と「社会民俗学の探究」である。

短くもあり、多少心残りがあるものの、充実した旅であった。学院長をはじめ皆さん有り難うございました。

真っ直ぐホテルへ帰館。

刘さんより、添乗で西安へ行く事があるので、夜光杯を買って送ってあげるとの申し出。

ありがたくお願いし、アドレス、名刺を交換する。

明日は帰国。4時半起床のため荷造りを済ませ、茅台酒を一杯飲む。

今旅もよく飲んだ。中国酒最高！

明日から又管理生活へ戻るのかと思いつつ、11時半就寝。

10月25日(土) 天候 北京 晴れ 札幌 晴れ

4時半、すっきりと起床。

チェックアウトし、朝食のサンドを受け取り空港へ。眠いせいか、旅の疲れが出たのか、皆一応に無口。

チェックインはスムーズ。

刘さんと握手でお別れ、お世話になりました。夜光杯よろしく！

学院長もまだこちらで仕事があるため、残留。ご苦労様です。

搭乗待合室まで400m、歩いて10分、遠い。途中の免税店で三種味の中国カップ麺を買う。

一個4元。前にも食べたことがある。日本には無い味で結構旨い。

機内は満席、日本人、中国人半々くらいか。

CA169便、定刻テイクオフ。機内朝食は中国粥、ホテルほどの味ではないが、まあまあ。

最後まで中国菜。

本当は一眠りしたかったが、最年少MちゃんのPCゲームに付き合う。

子供は疲れ知らず、元気だ。

天気が良く、下北半島、函館、室蘭が見えた。帰ってきたぞ。

11時30分、新千歳空港到着。結構暖かい。

税関検査で申告品の無い人も申告書を書き、提出するようになった。

全部検査すればいいのに、結局検査は無し。日本の役所は本当に無駄なことをする。

事務局長出迎え。

ここで皆さんとお別れ、お疲れ様でした。お世話になりました。お元気で！

2時、帰宅。日記もこれでクローズ。

旅の小話

交通信号機について

交通信号機は機種、表示方法とも全国的に規格統一されていないようである。

済南、曲阜では黄ライトが無く赤青ライトの下に切り替わるまでの秒数が表示されカウントダウンする。

青島、北京では通常の三色信号機だが、青島の一部の信号機で赤から青に変わる前に赤が点滅して青に変わっていた。

以前行った成都、重慶では赤青のみの信号機だったし、上海では赤から青に変わるときも黄が点灯点滅した。

各町々で個性があって良いのか、悪いのか。大きなお世話か。

なお、歩行者、自転車で信号に従う人はほとんどいない、各自自己責任において行動している。

従って、横断用の押しボタン信号機などあるはずもない。

トイレについて

ホテル、大きなレストラン、公共有料トイレは設備的、清潔さは問題ないが、一部にまだまだ問題のあるところがある。

特に地方の無料公共トイレや初期に建設された高速道のサービスエリアのトイレ等は総じて汚く、ドアが壊れてる、鍵がない、大の方に仕切りがない、水が出ないか勢いが弱く流れない等々問題が多く、特に女性にはショックである。

我が一行も曲阜市孔子生誕地「夫子洞」のトイレのひどさに驚き、以後行く先々のトイレでここは2ツ星、ここは4ツ星だ、と等級を付けるようになった。

結婚について

都市部においては日本と同様に男女とも婚期が遅くなっているとのこと。

改革開放政策による西欧文化の流入と経済発展による所得の向上などによる価値観の変化なのか。

なお、中国では男性が大変なようである。(日本でも同じだが)

女性が結婚相手としての必須条件は家(マンション)を持っている、もしくは購入できる(ローン返済能力も含む)収入があるかだそうである。プラス、自動車を持っていればなお良し。

従って、結婚を望む男性は無理をしてでも家を買ひ、長期ローン返済で苦しむ事となる。

そういう男性を中国では“房奴”^{fáng nú}というそうである。ただし“房奴”も失格。
刘、亮両ガイドも30代前半の独身で、最近マンションを購入したとのこと、なお“房奴”ではないと言っていた。
結婚式も派手にお金を掛けるとのこと、その費用も考えると、中国の適齢期の男性に同情するばかりである。

煙草とコーヒー

中国男性の喫煙率は高いとのこと。
刘さん以外のガイドと二人のドライバーも喫煙者だった。
日本の煙草は人気があり、ちょっとしたお土産として最適。
ちなみに人気銘柄はマイルドセブン、セブンスターだそうで、私もセブンスター買って行き、各位にプレゼントし喜ばれた。
近年都市部で、特に若い人たちがコーヒーを飲むようになったそうで、SBも出店している。だが、前にも書いたが、コーヒーは中国では最低でも30元くらいの高い飲み物である。
インスタントコーヒーもお土産に喜ばれるかも。

ホテルの朝食

ほとんどがアメリカンビュフェスタイルであるが、ちゃんと中国菜はある。
特にお粥は、白米、玄米、稗などがあり、具のトッピングもある。どれも旨く、朝の胃袋に爽やかさを与えてくれる。
世界三大料理の地へ来てまで、トーストにコーヒー、ポイルドエッグはないだろう。
本当はホテルの近くに朝飯の屋台があればそこでたべ食べたかったのだが。

以上